

システム基盤技術検討会に関する 有識者からのご意見抜粋

I 超スマート社会サービスプラットフォームの在り方について

視点	ご意見詳細
ルール・制度	ルールや制度も含めた幅広い意味でのソフト面をどうするかが重要ではないか
産業競争力	<p>海外のプレーヤーが何を目的にプラットフォーム化をしているのか分析するべきではないか。日本の製造業の暗黙知がオープンにされた場合に産業競争力は維持できるのかどうかを考える必要がある</p> <p>国際視点で見た際、プラットフォーム化の動きは海外（特にアメリカ）に負けてしまうと感じている。Nvidiaはディープラーニングの研究を進めており、同様にソフトウェアのプラットフォーム化が重要である。国際的にはオラクルやSAPが進んでいるなか、日本の企業が追従するという構図になっているように思う</p>
国際展開	<p>共通プラットフォームをどのように国際展開をしていくか考えるべき。国際的にビジネスに乗らないと話にならない。アメリカは様々なところでプラットフォーム化の取組を始めている</p> <p>日本社会に貢献するとともに、国内のために作るだけでなく、アジアぐらいまで展開できる覚悟で進めるべき</p>
実証重視	<p>プラットフォームは実証していく中で具体的に考えていくのが良い。今回の連携対象の11システムはSIPの取組と連動していると思うが、SIPは各施策の横断的な取組が進められていないと感じる。エネルギーシステムと高度道路交通システム、インフラ維持管理・更新システムや自然災害に対する強靱な社会システムは親和性が高い。まずはこういったシステムを繋げたうえで、プラットフォームを考えるといった、逆の進め方もあるのではないか</p> <p>化学プラントのように日本でシステムをデザインし、システムごと海外に展開し、制御面やメンテナンスで稼ぐというビジネスモデルが重要ではないか。そのための国内実証試験をしっかりと行う必要があるのではないか</p>
展開時期	<p>国際的な動きを見る限り、日本も早く動いていく必要がある。プラットフォーム化の動きについて、海外では既に実証試験がスタートしてきているため、5年先では遅いのではないか</p> <p>2020年のオリンピック時には少なくとも社会実装されていることが望ましいのではないか</p> <p>国際的視点で考えたときに、日本の取組にはインパクトが足りない。戦略としての特徴、技術としてのメッセージを残していかないといけない。今世紀後半ぐらいに・するといった長期的なビジョンを明確にしていくべきではないか。そのビジョンにはアクションが伴っている必要がある。IPCC等を参考にすると良い</p>

I 共通のプラットフォームの社会実装に向けた課題と留意事項について

視点	ご意見詳細
ユースケース	<p>システム連携・協調しやすい順序があるはずで、効率、利益のネタが出やすいかの観点で考えるとブレークスルーがあるはず。農業は利益が出やすく、おもてなしでは金が回らない</p> <p>ユースケースを定めて、インターフェース、標準化等を議論しないと、ケース毎に状況が違うため同じ議論が繰り返される可能性があるためユースケースをもとに具体的に議論を進めた方が良い</p> <p>システム連携には“包括ケア”も重要である。また、ものづくりと自動走行を直接結び付けるのではなく、ものづくり-包括ケア-自動走行といった形で間に包括ケアを持ってきた方が、システムとして連携しやすいかもしれない</p>
セキュリティ	<p>システムが繋がった場合のリスク、システムティックリスクを考えてほしい。バグがなくても正しいとは限らない。例えば、鉄道の相互乗換を実施した際に、片方でトラブルが起こった場合に全体が影響を受ける。システム連携の際にはこういったリスクを事前に検討すべきではないか</p> <p>セキュリティ技術は必須の取組であり、セキュリティを担保しつつプラットフォーム化をきちんとやっていくことが良い。具体的には、TCPスタックからOSまでの一連のシステムを使えるようにすべきではないか。そのためにもSIPのサイバーセキュリティの活動は重要ではないか</p> <p>セキュリティからトラストまでレベルを上げるべきではないか。人や組織の認証だけでなく、モノの認証も重要ではないか。IoTが進化した場合に、テロが簡単に起きる可能性あり、国内では議論すべきではないか。</p> <p>IoTの爆発的な普及で、わからないモノやシステムがつながっている。Known Unknownを前提にしたシステム開発が必要ではないか</p>
データの活用	<p>SUICAの事例にあるように、データのオープン化にあたっては社会が許容できるように、セキュリティや匿名化も含め、データが利活用できる環境(第三者提供含め)を検討すべきではないか</p> <p>社会通念ができるまでは、法整備や制度が必要。ルール(マナー含)、ツール、教育が重要。ドイツのように定義し標準化を図ることが重要。国内だけでなく、他国の状況も鑑み、国際的視点で議論すべきではないか</p> <p>他社のプラットフォームの上にならって自社が商売ができるか、といわれれば利害関係もあるため難しい。例えば、ベンチャー系がプラットフォームを作り各社が追従する方が連携が図れるのではないか</p> <p>データの標準化には個社の利害関係が生じるため、例えば、“防災”というキーワードのような、共通社会資本という概念からプラットフォーム化を進めるべきではないか</p>

I 共通のプラットフォームの社会実装に向けた課題と留意事項について

視点	ご意見詳細
新たなサービスの創出に向けた対応	システム化を図るにあたり、狙いどころは、量的なポテンシャルがあるところか、技術的ハードルが低いところか、であるが、いづれにしても利益がでるところが狙いどころ
	通信インフラは各国様々であり、その点に関して、日本が海外に、海外が日本に攻め込めない領域だろう。新幹線輸出のようにシステムごと海外に持っていけると良い
	通信原価は160年で16桁ぐらい下がり、お客様価値に通信コストが見合ってきた。また、googleのように、広告収入で通信コストを賄うやり方もある。通信コストとお客様価値の観点から産業創造のきざしが見えるため、今回のシステムの連動先も見えてくる可能性がある

I その他ご意見

視点	ご意見詳細
社会科学	利用データの社会的重要性を議論するにあたり、社会科学、人文科学系のメンバーも入っていた方が良い。どこかの回でそういった専門家のプレゼンを入れてはどうか
予算	関係各所との情報共有という意味でも、各省の概算要求の予算の紐づけを行ってほしい
システム運用	ダイナミックマップは国か民間か、どこが使うのかを考えたいうえで議論すべきではないか
	AIPの3省連携の取組について、どう作り、誰が運営していくのか？「運用」がカギである。ここで議論する時間がなければ4月以降検討していくべきではないか
知財戦略	知財戦略についても検討した方がよい。国家として、競争力向上のためにどこまでをクローズにするかは議論する必要があるのではないかと
ベンチャー投資	大企業がスピード感をもって動くことが重要であり、企業意思決定のスピードを上げることが重要ではないか。難しいようであれば、大企業がベンチャーに投資する環境を整備すべきではないか
検討会の成果	本検討会のアウトプットとして、各システムの活動を繋げるところまでもっていかないといけないのではないかと
他会議体との連携	他の戦略協議会等との連携協調を図るためには、システム基盤技術検討会の構成員が他の戦略協議会に参加して連携の在り方について直接意見した方が良いのではないかと